

何を伝えたいか整理して

読む人のこと考えよう

記事を書こう

◆今日の講師
西部本社報道部
勝部 浩文記者(36)



2007年入社。本社報道部、米子総局報道部、本社政経部などを経て20年春から西部本社勤務。これまで伝統料理から警察取材、憲法問題まで幅広く取材。

取材、記事、見出し… 新聞作りのキーワード

六つの大事なこと(5W1H)



浜田市役所の記者室を拠点に、市の課題やまちの話題を取り、記事を書いています。記事を書く、と聞いて驚かれる人もいらっしゃるかもしれませんが、記事を書くのは難しいですが、新聞記事は「何を、なぜ、どこで、誰が、どのように、どうした」の6つの要素を文章に入れると、大事なことが押さえた、具体的な記事が書けます。記者にならなければ一生懸命意識して入れていたものが、今は自然に書けるようになってきました。5W1Hを盛り込めば、後は自分の考えを

1日1記事を書くときに、役立ちます。いつ、どこで、誰が、何を、なぜ、どのように、どうしたのか。六つの要素を文章に入れると、大事なことが押さえた、具体的な記事が書けます。記者にならなければ一生懸命意識して入れていたものが、今は自然に書けるようになってきました。5W1Hを盛り込めば、後は自分の考えを

リードは単なる最初の段落ではなく、「記事全体の要約文」です。新聞記事はリードを読めば、記事の内容がだいたい分かるようになっていくのです。

本文では、リードを補うように、具体的な説明を大事なことから順番に追加していきます。最初に要約文を書いたから順番に1段落ずつ追加していきます。最初に要約文を書いたから、大事なことから具体的に説明をする新聞記事の文章スタイルは「逆三角形」(図1、2)と呼ばれます。

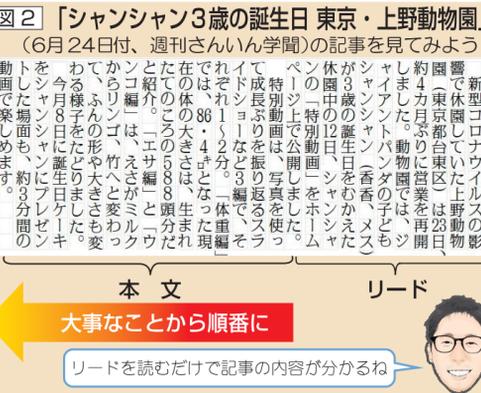
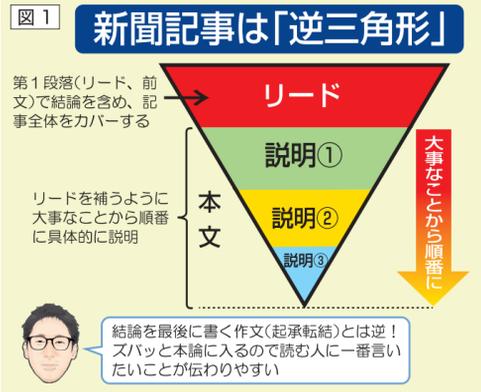
まず、リードをしっかりと考えて書きましょう。自分はこの原稿で何が言いたいのか、伝えたいのか、頭を整理してまとめます。ここで全体像が見えないと、本文を書き進めることができません。

僕も何が言いたいのかわからないまま原稿を書き、デスク(上司)に怒られて何度も書き直したことがあります。でも、そうして手を動かして書くうちに頭が整理され、伝えたいことが見えてくることもあります。

本文は、なるべく具体的な文章になるよう、根拠となる数字を入れたり、伝えたいことを象徴するコメントを入れたり工夫します。他人の文章を借りる



取材を終えて記事を書く勝部浩文記者(浜田市竹迫町、山陰中央新報社西部本社)



新聞づくりタイムズ

第9回しまね小中学生新聞コンクール

第3号

12月4日まで

作品募集!

「引用する」ときは、文章を「くく」たり、段落を変えたりして自分の文章と区別し、出典(出どころ)となった本や新聞の名前(掲載日)を入れましょう。

考える材料

記者3年目の時、空いた休日の活用について書いた記事が、町議会で取り上げられました。社会が正しい方向に進む手助けができたように、うれしかったのを覚えています。

新聞記事の目的は、読者に情報を伝え、考える材料を提供することです。頑張ってください。

「知っている? SUPERな移動スーパー」
八木誠君(大田市立天田小学校)

「発見福祉新聞」
山下明悟さん(出雲市立第三中学校)



「発見福祉新聞」
山下明悟さん(出雲市立第三中学校)



「知っている? SUPERな移動スーパー」
八木誠君(大田市立天田小学校)

第8回しまね小中学生新聞コンクール
各部門の最優秀作品

「知っている? SUPERな移動スーパー」
小学6年生の部

中学1年生の部

これまでの優秀作品は山陰中央新報社のホームページで見ることができます。

次回は20日掲載です。

主催:山陰中央新報社

第9回しまね小中学生新聞コンクール

作品募集中!

応募締め切り
12月4日(金)
新聞社必着

- 対象
島根県内の小学生と中学生
- 応募規定
- 専用の応募用紙を使った個人の作品 ●テーマは自由。一人2作品まで応募可
 - 用紙はタテに使い、内容は枠の中におさめる
 - 文字は手書き(手書きが難しい人はパソコン使用可)
 - 人の文章や写真を勝手に自分の作品に使わない。本や新聞、インターネットの文章を引用する時は「」をつけて示すなど、自分の文章と区別して、出典(出どころ)となった本や新聞の名前、掲載日を入れる。写真は撮影者などに許可を得る
- 審査と賞
- 学校の先生や新聞記者による審査会を12月~来年1月に3回実施
 - 学年ごとに最優秀賞(1)、優秀賞(1)、優良賞(1)、入選(17)、佳作(30)の計50点、「学校賞」(小中学校各5校程度)を贈る
 - 副賞は最優秀賞(図書カード3万円)、優秀賞(同2万円)、優良賞(同1万円)、入選(同1,000円)、学校賞(同1万円)。応募者全員に参加賞
 - 上位3賞の入賞者、学校賞は来年1月下旬に山陰中央新報の紙面で発表
 - 入選、佳作受賞者は来年3月に山陰中央新報に掲載予定の特集紙面で発表
 - 作品は審査終了後、随時返却します(入選以上は来年3月から開催予定の作品展終了後)
- 応募作品の著作権は山陰中央新報社に帰し、山陰中央新報紙やホームページに掲載するほか、優秀作品は県内で開催する作品展で展示します●応募の欄にいただいた個人情報はコンクール運営のみ使用し、第三者への提供はしません

- 応募方法
- 児童・生徒のみなさんは学校に提出
 - 学校は提出された作品をまとめて、新聞社へ応募
- 先生方へ~新聞社への応募の手順
- 1 作品を学年ごとにまとめる
 - 2 山陰中央新報社「しまね小中学生新聞コンクール」のホームページから各学年用の「エントリーシート」(応募者名簿)をダウンロードし、学校名、応募者名、作品番号を記入
 - 3 各学年の作品の束に、プリントアウトしたエントリーシートを添え、新聞社へ提出(郵送、持ち込みなど)。エントリーシートのデータを新聞社にメールで送る
- 問い合わせ・作品の送り先
- 住所/〒690-8668 松江市殿町383山陰中央新報社「しまね小中学生新聞コンクール」事務局
 - 電話/0852(32)3414※平日9:30~17:30 ●ファクス/0852(32)3520
 - メールアドレス/shochu@sanin-chuo.co.jp

伝えるって おもしろい!

日ごろ考えていることや
気になること。
学校の授業で調べたこと、
体験したこと。
なぜ新聞にするのでしょうか?

新聞は、自分が感じたことを
ほかの人に知ってもらう、伝えるために作ります。
どうやったら伝わるかな、楽しく読んでもらえるかな。
読む人のことを考えて、記事を書いてみよう。
見出しやレイアウトを工夫してみよう。
思いが伝わるって、うれしいよ。

